

職員による自己評価

A環境面

- 利用定員に対する【活動スペース】、【職員の配置】は適切との意見が多かった。

B児童への支援内容

- 第三者への外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているかの項目に対し、ほぼ「どちらともいえない」の意見であった。
- 適切な支援の提供に関しては、出来ているとの評価であった。

C関係機関との連携

- 関係機関、保護者との連携について、チェック項目に関しほぼ意見が分かれていた。その中、【学校との情報共有】という項目については、ほぼ「持っている」と意見であった。
- 学校を卒業する児童に対して、障がい福祉サービスに移行際に、情報提供をしているかの項目は、10割「どちらともいえない」の意見であった。
- 障がいのない児童との関わりについては、「どちらともいえない」、「いいえ」の意見であった。

D保護者への説明責任・信頼関係

- 運営に関する事、指導員の体制、保護者との信頼などの箇所については、「適切な説明ができています」、「対応ができています」等との意見が多かった。
- 父母会の活動に関しては意見が分かれていた。

E非常対応

- ひやりはっと、虐待防止に関する研修機会、取り組みに関しては事業所内で共有ができていたとの意見があったが、その他については、ほぼ意見が分かれていた。

保護者による評価

A環境面

- 【活動スペース】、【職員の配置】に関してはほぼ10割の保護者から十分なスペースがとれ、適切な配置があると評価をいただく。
- バリアフリー化に関しては、「はい」、「どちらともいえない」との意見が割れていた。

B児童への支援内容

- ほぼ10割の保護者より、個別支援計画の作成がされ、活動プログラムについても工夫があるとの評価をいただく。
- 障害のない子どもと活動する機会に関しては、ほぼ「どちらともいえない」、「いいえ」の意見であった。

C事業所からの情報発信

- 支援内容、利用者負担等については丁寧な説明があると、ほぼ10割の方々から評価をいただく。
- 保護者会の開催に関して、一部の方々から「どちらともいえない」と評価をいただく。

D満足度

- 子どもは通所を楽しみにしており、事業所の支援に満足していると10割の方々から評価を頂く。



事業所内での分析

【共通点】

- 訓練室等は適切スペースが確保でき、指導員の人員も適切である。
- バリアフリー化ではない。
- 支援内容に関しては、保護者との情報、課題共有ができています。又、プログラムや個別支援も取組む事が出来ている。
- 障がいのない児童の関わりに関しては、機会が殆どない。

【相違点】

- 父母会について、職員は意見が分かれている状態であったが、保護者からは、「開催されている」との意見であった。
- 学校卒業後の福祉サービスに関しては、情報提供をしていないが、該当者が少ないという要因もある。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- 環境面、体制面では十分に確保できており、支援がしやすい状況となっている。
- 個別支援計画が丁寧に行え、児童の情報、課題共有ができています。その為、特性、成長段階に応じた支援方針ができる。
- 活動プログラムや内容に保護者が満足している。
- 保護者からの評価は高く、現状満足している方々が殆どである。

事業所の改善点

- 保護者から評価表は、ほぼ同じ意見であったのに対して、職員の評価表は、多くのチェック項目の意見が分かっていた。各々の、職員の認識の相違がある事が窺える。
その事から、職員に対しては、事業内容、事業の方針の理解度の差があると分析できる為、指導員の共通認識が改善点である。
- 卒業後へのアプローチが薄い事から、保護者を通して、情報提供していく必要がある。

事業所の改善への取り組み

- 職員への児童の情報等を強化し、共通認識を強めていく必要がある。
- 卒業後のアプローチが弱い為、事業所から保護者や進路先へ情報提供を行っていく必要がある。